



建交労

2017年夏季闘争推進ニュース

第19回定期大会迄あと2週間! 大会以降の拡大報告は1,459人(8/21現在)

第18回大会以降、8月21日までに中央本部に報告された組合員拡大の到達点は新結成17組織116人、組織内拡大195組織1,343人の合計1,459人となりました。全国の仲間の奮闘に心より敬意を表します。第19回定期大会までの残り約2週間、各組織で仲間を増やす活動にとりくみましょう。夏季闘争の補強方針で確認された拡大の表彰基準を掲載します。

8月21日 現在														
2016年度9月～ 組織拡大数		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
新結成	組織数	4	1	1	0	0	1	1	1	3	3	2	0	17
	拡大人数	35	1	9	0	0	35	2	13	4	11	6	0	116
組織内	全体組織数	42	52	55	51	44	40	68	63	50	43	14	1	523
	組織数(重複除く)	42	36	24	18	20	8	20	12	9	4	2	0	195
	拡大人数	85	111	118	97	106	101	152	203	220	105	43	2	1,343
組合員拡大合計人数		120	112	127	97	106	136	154	216	224	116	49	2	1,459

⑥ 組織拡大表彰に該当する組織は、8月25日までにデータベース入力を終え、中央本部に申請します。表彰対象は、県本部と中央登録100人以上の支部で以下の基準を達成した組織です。

- ① 第18回大会時点の組合員人数を基準に第19回大会直近までに純増15%以上の組合員を拡大した県本部と支部を最優秀組織として表彰し副賞を贈ります。
- ② 上記同様に純増で10%以上の組合員を拡大した県本部と支部を優秀組織として表彰し副賞を贈呈します。
- ③ 上記同様に純増で5%以上の組合員を拡大した県本部と支部を準優秀組織として表彰し副賞を贈呈します。
- ④ 中央登録30人以上100人未満の支部は、上記の基準で第17回定期大会直近の時点で純増30%以上の組合員を拡大した場合に、特別賞として表彰し、副賞を贈呈します。
- ⑤ 上記の基準を満たさない場合でも、組織拡大(年間50名以上)を目安にして中央執行委員会が認める奮闘を展開した組織を表彰し、副賞を贈呈します。

8.12辺野古新基地建設反対県民大会 4万5千人の県民の参加で大きく成功!

8月12日午後2時、那覇市奥武山陸上競技場において、辺野古新基地反対し、米海兵隊輸送機MV22オスプレイの配備撤回・飛行禁止を訴える「尾長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」が開かれました。辺野古新基地建設やオスプレイの訓練の強行など、県民の



抗議を一度も顧みることなく無視し、基地負担を押しつける政府に「NO」を突きつけました。真夏のとりくみにもかかわらず1時間も前から、老夫婦、子連れや家族連れ、若いグループと続々と会場に集まり、4万5千人の参加でした。

はじめに、オール沖縄会議共同代表4人、各国会議員、稲嶺名護市長のあいさつの後、県民を代表して翁長雄志知事が「昨年、名護市安倍にオスプレイが墜落し、その6日後には原因究明が無いままで飛行が再開された。1週間前には、普天間基地所属のオスプレイがオーストラリアで墜落し3人が亡くなった。県民が危惧した通りの状況になっており、憤慨に堪えない。米軍が運用上必要だと言えば（日本政府は）すぐに引き下がる。県の再三の要請や行政指導にも応じず、国ともあろう者が法令をすり抜けることに心血を注ぎ、強硬に新基地建設を推し進める姿勢は法治国家という言葉に程遠い。工事を強硬に推し進める状況は必ず埋立承認撤回につながっていく。撤回の時期を私の責任で決断する。県民は日米両政府が新辺野古基地を断念するまで闘い抜くと固く信じている。今後も県民に対する如何なる差別的、犠牲的な扱い、辺野古新基地建設反対、普天間飛行場の閉鎖・撤去に取り組んでいく不退転の決意を約束する」と、強い決意を述べた後「子孫の為に、うやふあふじぬ思い、肝にすみていぬちかじりちばらなやーさい（子や孫のため、祖先の思いを胸に刻み、命の限り頑張りましょうよ）と、うちなーぐち（沖縄方言）で呼びかけました。この翁長雄志知事の決意に、怒号のごとく拍手喝采が鳴り響きました。

県民大会は、翁長雄志知事が提起した辺野古新基地をめぐる差し止め訴訟を支持する大会宣言、オーストラリアでのオスプレイ墜落事故の抗議し米軍普天間基地の即時閉鎖・撤去を求める特別決議を採択しました。（沖縄県本部 東江 勇）